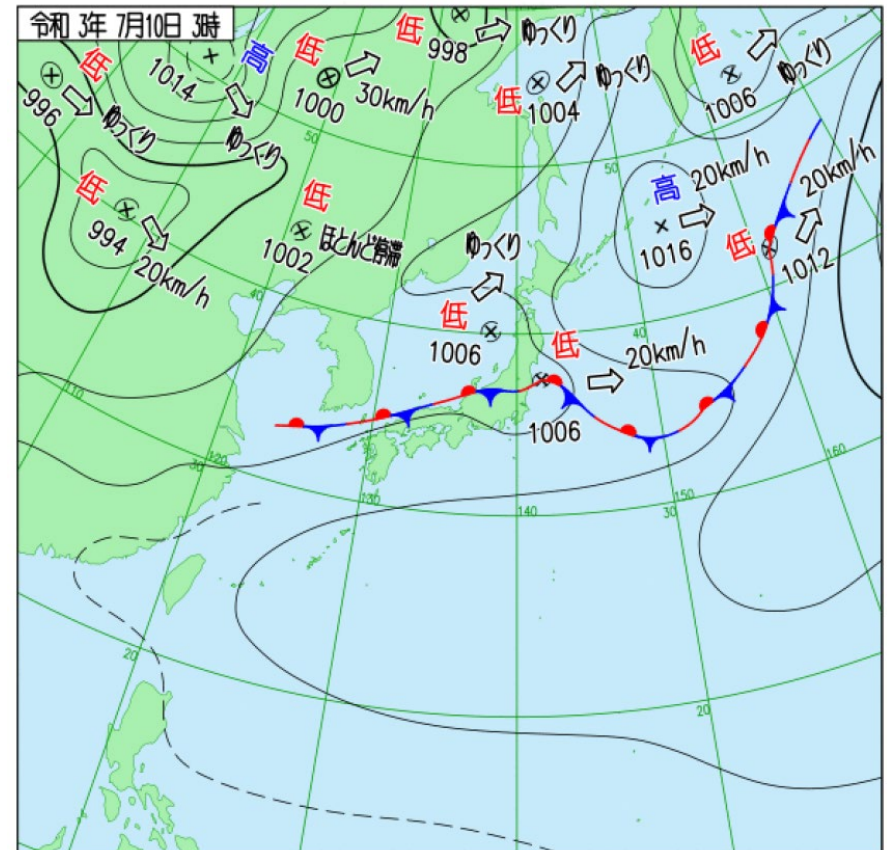
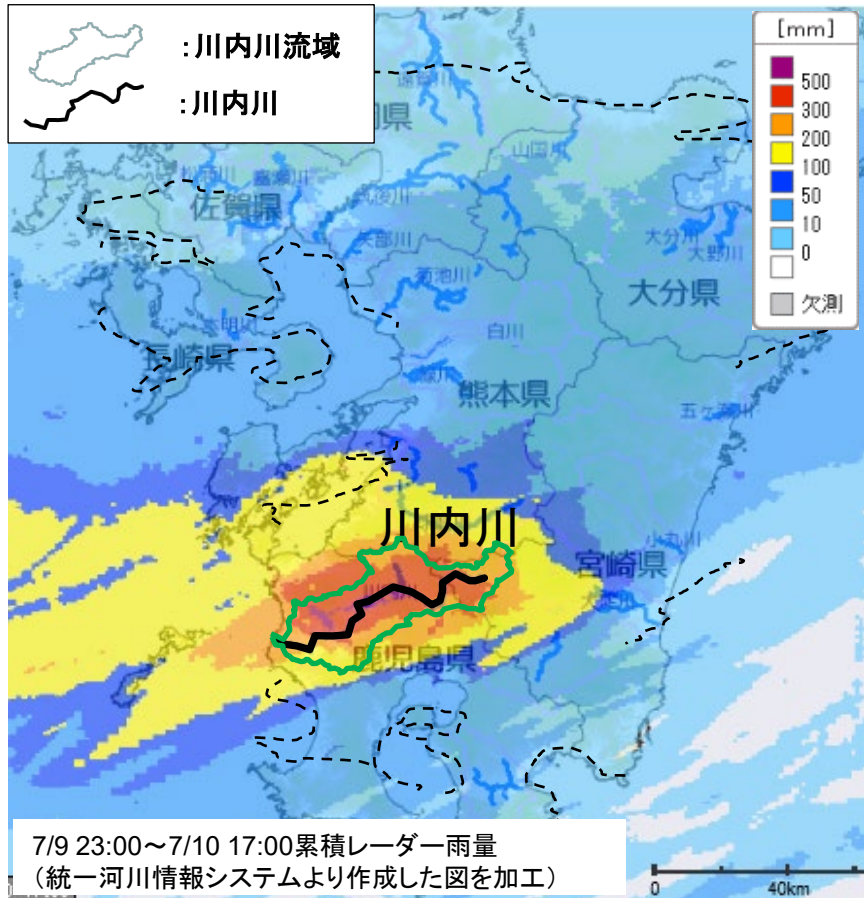


# 令和3年7月出水について

# (5) 川内川における令和3年7月豪雨の概要

## 1) 令和3年7月9～10日の雨量概要

- 7月9日夜遅くから10日昼前にかけて、梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、九州では大気の状態が非常に不安定となり、鹿児島県北部を中心に線状降水帯が発生。鹿児島県出水市、伊佐市、薩摩川内市、さつま町、湧水町、宮崎県えびの市、熊本県人吉市に大雨特別警報が発表されました。
- 福岡管区气象台によると、8日から10日の3日間の降水量は、さつま柏原(さつま町)で553.5ミリ、紫尾山(さつま町)で553.0ミリを観測し、7月の月降水量(平年値)に匹敵する大雨となりました。



天気図 (気象庁HPより)

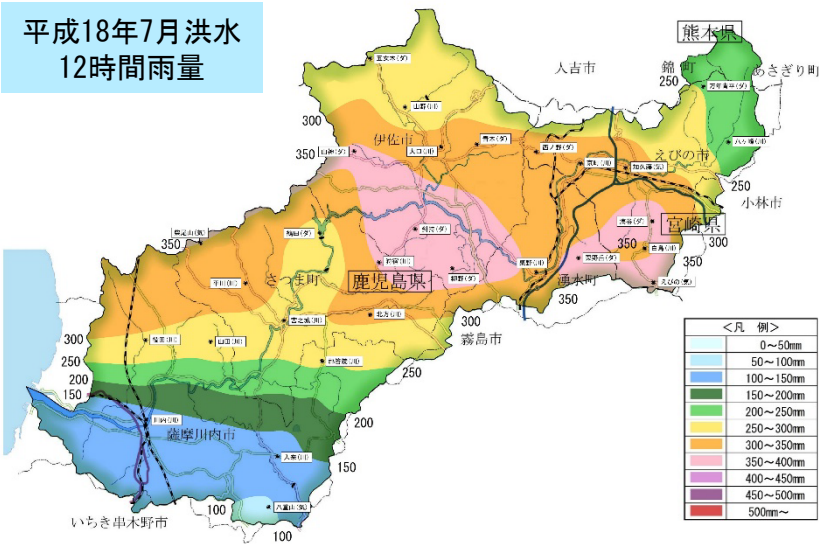
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# (5) 川内川における令和3年7月豪雨の概要

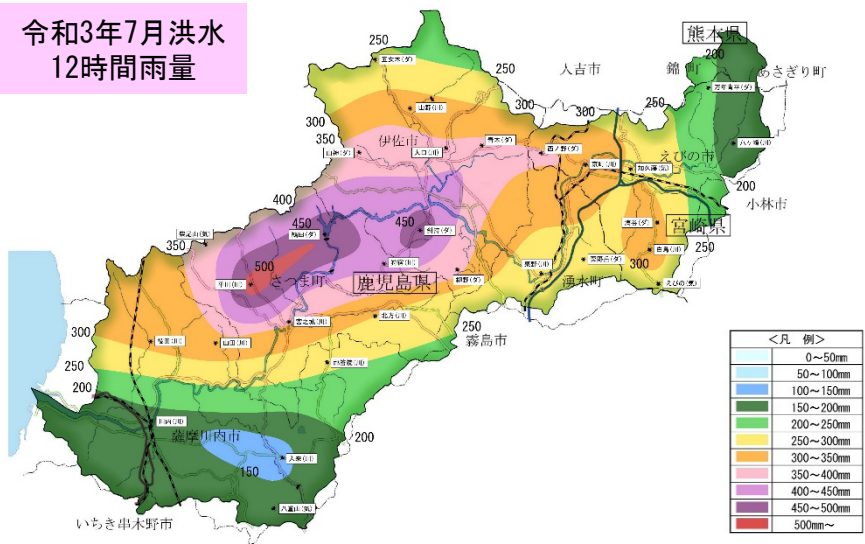
## 2) H18. 7洪水との比較

○ 川内川流域では、12時間雨量をみると、平成18年7月出水に匹敵する降雨量となりましたが、総雨量では、平成18年7月出水規模には至りませんでした。

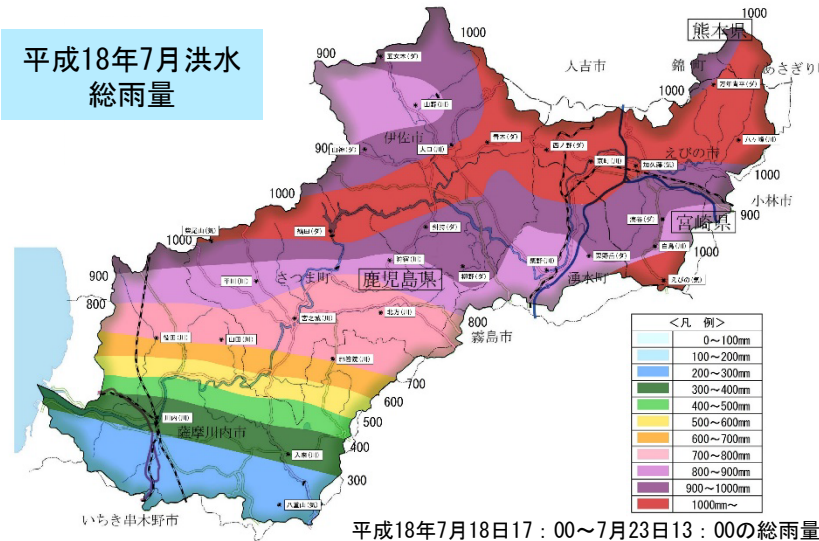
平成18年7月洪水  
12時間雨量



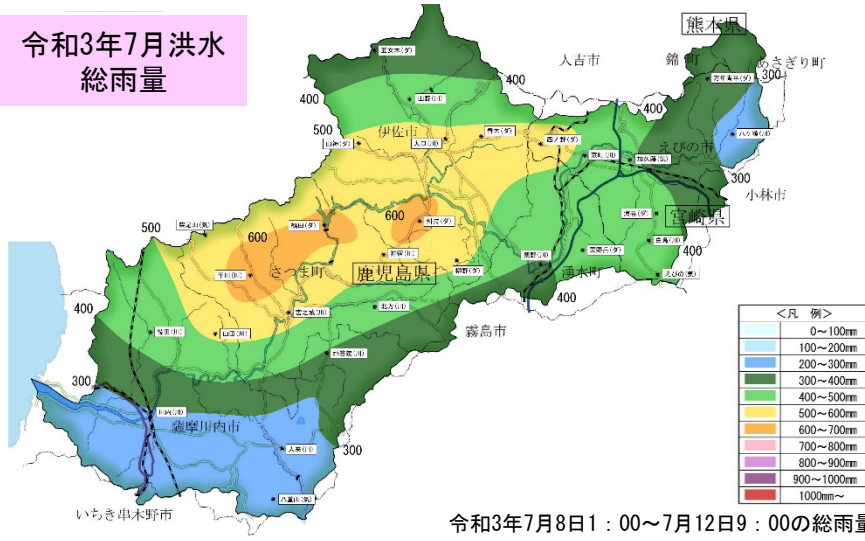
令和3年7月洪水  
12時間雨量



平成18年7月洪水  
総雨量



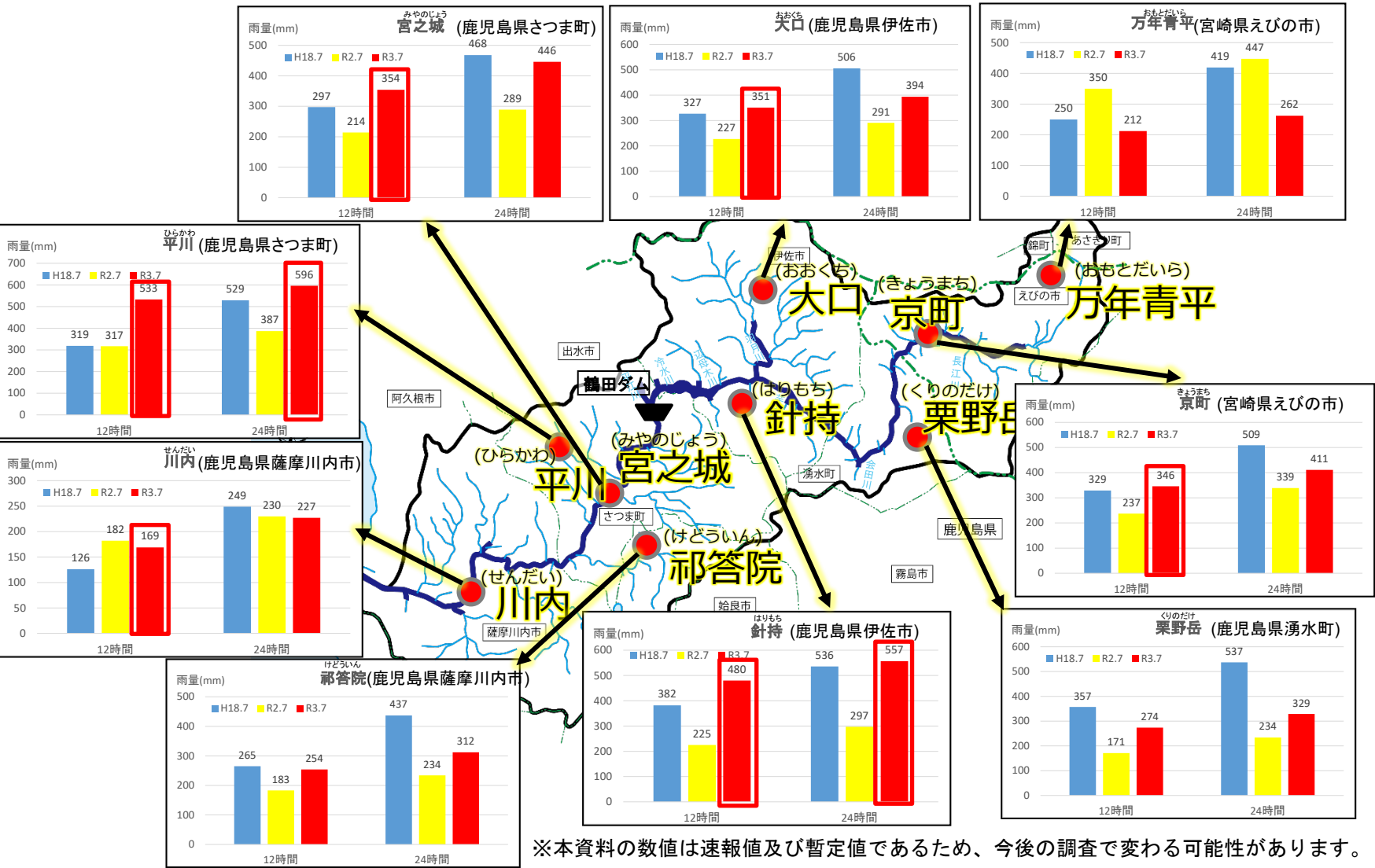
令和3年7月洪水  
総雨量



# (5) 川内川における令和3年7月豪雨の概要

## 3) 降雨の状況(川内川流域)

○ 川内川流域では、流域内の各雨量観測所において戦後最大の洪水被害をもたらしたH18.7洪水に匹敵する12時間雨量・24時間雨量を観測しました。

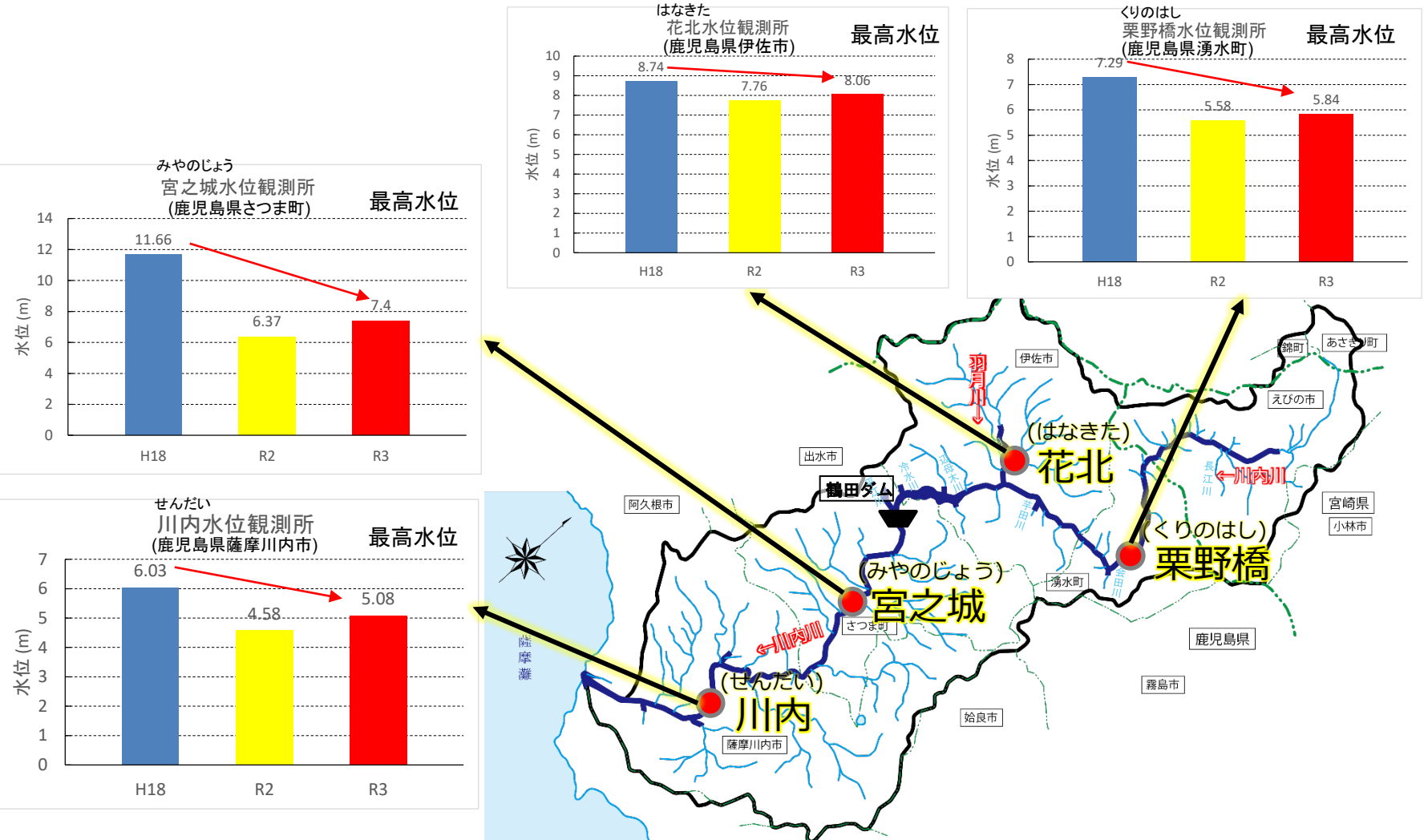


※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# (5) 川内川における令和3年7月豪雨の概要

## 4) 降雨の状況(川内川流域)

○ R3.7出水は、H18.7出水に匹敵する降雨だったものの、川内川流域内の各観測所の水位はH18.7出水を下回る水位を記録しました。

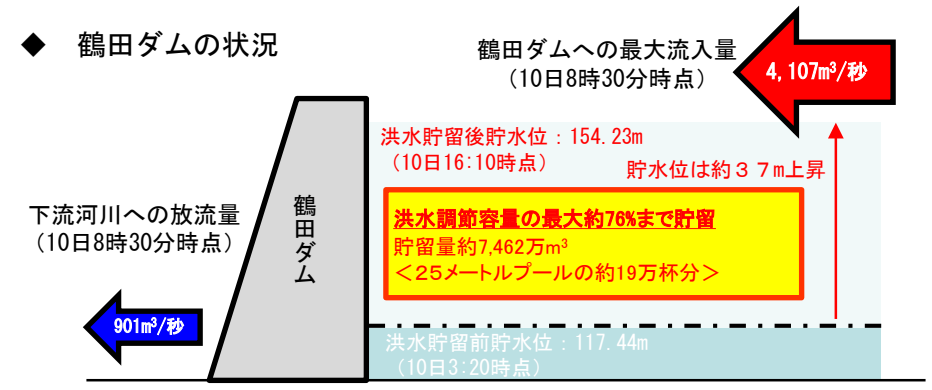


※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

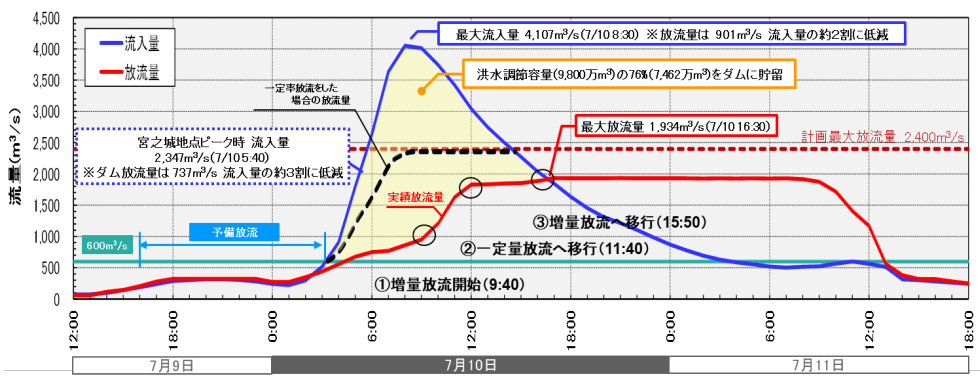
# (5) 川内川における令和3年7月豪雨の概要

## 5) 鶴田ダム再開発事業及び激特事業の効果

○ 平成18年7月出水により特に被害が大きかったさつま町虎居地区においては、激特事業により築堤及び河道掘削、推込分水路等を施工した。今回、R3.7.10洪水では、鶴田ダム再開発事業並びに激特事業による河道掘削や推込分水路へ分流による効果より、H18年以前の整備前と比較して、宮之城水位観測所地点で約1.8mの水位低減が図られました。



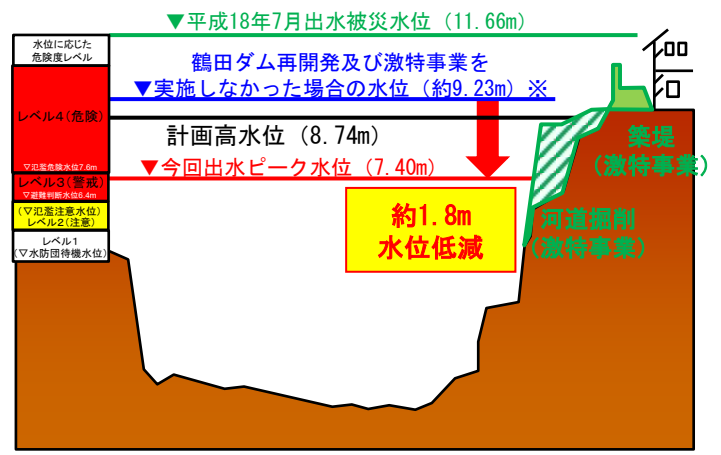
◆ 鶴田ダムの流入量・放流量のグラフ



推込分水路の状況 (R3.7.11)



■ 宮之城観測所における水位低減効果



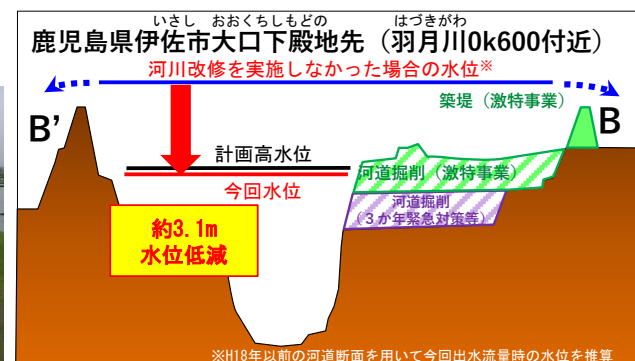
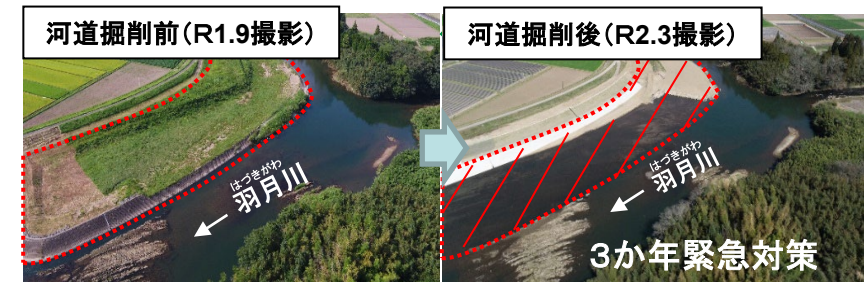
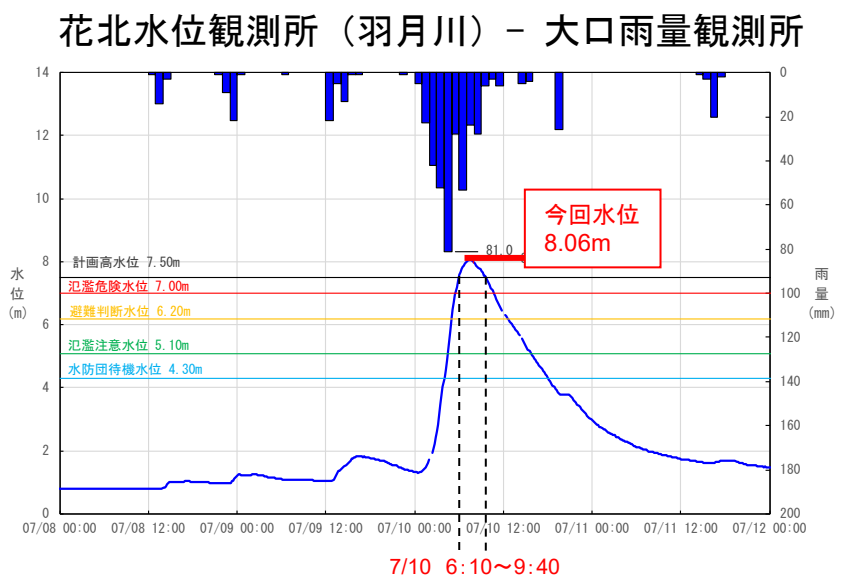
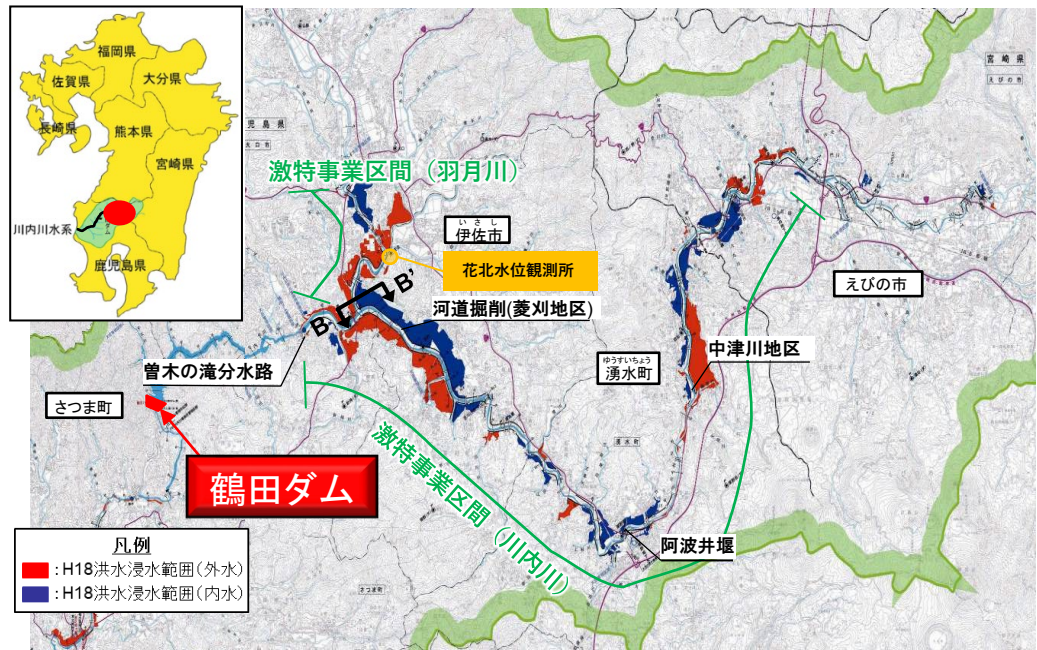
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※H18年以前の河道断面を用いて今回出水流量時の水位を推算

# (5) 川内川における令和3年7月豪雨の概要

## 5) 鶴田ダム再開発事業及び激特事業の効果

- 川内川では、H18.7出水により浸水戸数2,347戸など甚大な被害が発生したため、激特事業等により治水対策を実施。
- R3.7出水では、H18.7出水に匹敵する降雨であったが、羽月川0k600地点の水位は、H18.7洪水時の最高水位と比べて約3.1m低く、治水対策の効果発現により被害を軽減。



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# 令和3年7月出水の被害状況



流域内被害状況<R3.8.12時点>

		薩摩川内市	さつま町	伊佐市	湧水町	えびの市	合計	
人的被害		0	0	0	0	0	0	件
家屋被害	床上浸水	6	1	13	10	0	30	戸
	床下浸水	54	14	26	14	2	110	戸
浸水面積		498.6	64.9	460.3	196.0	36.6	1,256.4	ha

